様式２

全学共通教育についての自己点検・評価報告書（教育部会用）

教育部会名：　外国語第１（英語）教育部会
部会長名：　加藤雅之
作成者名：　加藤雅之

概要（2000 字）

1　運営体制
企画運営に関しては、下記の組織を通じて行なった。
(1) 幹事会(月1～2 回、随時開催)
部会長: 全般、非常勤
幹事: 教科書
幹事: 時間割
幹事: 予算・CALL
(2) (国際コミュニケーション内)英語教育企画委員会(毎月第二金曜日)
(3) 英語部会(毎月第三金曜日)

2　授業・カリキュラムについて
新しいプログラムの導入により、クラス数が全部で 30 クラスほど増加したため、1 クラスあたりの学生数が減少し、とくに 1 年後期～2 年前期にかけては、ほぼ 30 名程度に抑えることができた。また、海外研修を単位化するなど、単位の実質化の面でも充実が見られた。*は新しく導入したクラス。

オーラル I、II、II(特別編成)III、III 再履修
リーディング I、II(*理系向け特別編成)、III、III 再履修
*GEC　オーラル II、III、海外研修
*GEC　リーディング II、III

(1)GEC コースの導入
　グローバル人材育成推進事業の一環として、英語において、グローバル英語コース（GEC コース）を導入した。文・社会系学部の 1 年生の中から、(原則として)「外部試験の成績により、246 名の学生を選抜して、後期から授業を開始した。合わせて、KALCS にライティング・セミナーを開設し、夏季・春季休暇において英語セミナーを開催するなど、学生の英語運用能力向上の一助となった。
　GEC は留学希望の有無によって、PSA と GEM クラスに分かれ、さらに PSA は長期・短期留学の形態によって A・B・C に編成された。また、短期留学には 80 名弱の学生が参加し、グリフィス大学、オークランド大学、ハワイ大学の三カ所で実施された。帰国後のアンケート調査では 90%の学生が満足したと回答している。また、95%の学生が、オーラル II およびリーディング II の GEC コースの単位を修得した。

(２) 理系学部でこれまでオーラル II にだけ設置していた特別編成クラスをリーディング II にも拡大した。本年度の受講者はオーラルが 69 名、リーディングは 68 名であった。

(３) 特別単位認定制度を廃止し、夏季・春季休暇での海外短期英語研修参加者には英語アドバンス科目の単位を認定することとした。

3 英語部会の FD 等の取り組み
英語部会では今年度、国際コミュニケーションセンターの公開教育セミナーや公開ピアレビューに参加するかたちで、FD 活動を行なった。

2013 年 6 月 14 日（金）12:30～13:30
「グローバル人材育成を目指したタブレット型端末の活用とコンテンツ」
上村武司様（ピアソン・ジャパン）他

2013 年 10 月 31 日（木）17:00～18:30
「グローバル世界で活躍できる人になるための海外留学」
クロディーヌ・フレシェ先生（リヨン・カトリック大学・文学部長）

2013 年 12 月 6 日（金） 10:20～12:30
「平成25年度外国語授業ピアレビューおよび外国語教授法講演会」
ピアレビュー
○横川教授（英語）
○ショルト特任准教授（英語）
○福岡講師（ドイツ語）
講演
講演者: 森朋子先生
題目: 学生を大化けさせる外国語教育とは

4 自己点検・評価報告について
今年度は、GEC コースにおける習熟度別クラス編成が本格的に導入され、クラス数も急増するなど、大きな変化があった。とりわけ GEC コースでは、PSA において担当教員が共通シラバスを作成し、共通教科書を採用するなど、これまでにないかたちの授業が行われた。今後、4 学期制への対応や、理系クラスへの拡大を視野において、今回の結果について十分検討していきたい。
自己点検・評価報告書は部会長へのとりまとめ以後も、断続的に提出を求め、4 月 9 日段階で 40 名の送付があった。その結果おおむねすべての観点について「はい」の回答を得たがあったが、6-1-②では若干否定的な評価もあった。これは、学習成果の上昇の判断材料として、学生アンケート以外に求めることは難しいが、そのアンケートへの回答分母が小さいためごく少数の学生の判断に寄らざるを得ない面があったためと思われる。

様式２（続き）

<u>項目・観点ごとの記述</u>

<u>基準５　教育内容及び方法</u>

５－１【教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）が明確に定められ，それに基づいて教育課程が体系的に編成されており，その内容，水準が授与される学位名において適切であること。】

５－１－③：　教育課程の編成又は授業科目の内容において，学生の多様なニーズ，学術の発展動向，社会からの要請等に配慮しているか。

（観点に係る状況）
新聞、WEB、雑誌等、アップデートな材料を扱うとともに、CALL 室での WEB 環境を利用して、TED などのプレゼンテーションサイトを活用している教員が多くみられる。また、教員の研究分野での成果が授業の中に取りいれられている例も多い。

根拠資料
・シラバス
・世界で広く読まれている雑誌をもとに作成された教科書
・授業中の配付教材
・学習管理システム(Moodle)上における掲示、参考情報

５－２【教育課程を展開するにふさわしい授業形態，学習指導法等が整備されていること。】

５－２－①：　教育の目的に照らして，講義，演習，実験，実習等の授業形態の組合せ・バランスが適切であり，それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法が採用されているか。

（観点に係る状況）
適切な組合せの授業が行われている（例：６モジュール形式で多様な言語学習活動が成立するよう配慮を行っている；リーディングの授業ではあるが、リスニングやライティングとの連携にも配慮した。)。

根拠資料
・シラバス
・教材
・Pre- and Post-tests given in class, and records on mreader website
・シラバス（あらかじめ授業で訳出するテキストの範囲を指定し、予習を指示した）

５－２－②：　単位の実質化への配慮がなされているか。

（観点に係る状況）
すべての授業において、授業準備が必須になっており、さまざまな方法で単位の実質化への配慮がなされている。

根拠資料
・シラバス
・課題（毎回提出）
・小テスト（毎回）
・中間・期末テスト
・授業中の配布資料
・Use of online services for learner autonomy

５－２－③：　適切なシラバスが作成され，活用されているか。

（観点に係る状況）
うりぼーネット掲載のシラバスには、授業の目標、内容、成績評価方法および基準等が適切に記載されており、このことは幹事会でも点検を行い、確認している。外国語第Ｉ部会では、各科目の目標を統一して定めており、各科目の趣旨を生かしつつ、個別の項目については各教員が学部等の特性に応じて工夫し、受講学生の学習意欲喚起につながるよう配慮している。

根拠資料 ・シラバス（教務情報システム）

５－２－④：　基礎学力不足の学生への配慮等が行われているか。
（観点に係る状況）
オフィスアワーの設定による個別の学生指導、小テストや複数回試験野の実施などによる学習意欲の喚起と到達度確認、Moodle 等を活用した授業資料および予習課題の提示など、各教員がクラスの特性に応じて、基礎学力不足の学生に対する配慮を行っている。

根拠資料 ・シラバス、自己点検・評価報告書

５－３【学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）が明確に定められ，それに照らして，成績評価や単位認定，卒業認定が適切に実施され，有効なものになっていること。】

５－３－②：　成績評価基準が策定され，学生に周知されており，その基準に従って，成績評価，単位認定が適切に実施されているか。
（観点に係る状況）
成績評価方法および基準等は、うりぼーネット掲載のシラバスおよび教員が授業で配布するシラバス等において説明し、受講学生に周知されている。成績評価の対象（試験、授業内外の活動および課題など）と評価基準およびその割合を各教員が定め、その基準にしたがって成績評価が行われている。

根拠資料 ・シラバス ・Regular monitoring of performance in class, and at home (using online services), plus individual consultations in and after class ・成績の分布表

５－３－③：　成績評価等の客観性，厳格性を担保するための措置が講じられているか。
（観点に係る状況）
成績評価の内容と基準をシラバスに明記し、授業においても受講学生に説明・周知を図っており、その基準にもとづき評価が行われている。

根拠資料 ・シラバス、自己点検・評価報告書

基準６　学習成果

６－１【教育の目的や養成しようとする人材像に照らして，学生が身に付けるべき知識・技能・態度等について，学習成果が上がっていること。】

６－１－②：　学習の達成度や満足度に関する学生からの意見聴取の結果等から判断して，学習成果が上がっているか。

（観点に係る状況）

本観点で要求されるような十分な成果を上げている。

根拠資料としては学生授業評価に言及した回答が多かったものの、この方法については「なお，この質問項目の証憑データとして授業評価アンケートの数値を記録させることは，アンケートの性質を変容させる恐れがあり，またアンケート導入当初の確認事項にも抵触することから問題が多く，賛成できない。」という意見があった。

根拠資料 ・答案、学生授業評価

基準７　施設・設備及び学生支援

７－１【教育研究組織及び教育課程に対応した施設・設備等が整備され，有効に活用されていること。】

７－１－④：　自主的学習環境が十分に整備され，効果的に利用されているか。

（観点に係る状況）

国際コミュニケーションセンターが企画・運営しているランゲージ・ハブ室、CALL 教室の自習用開放および e-learning 教材の整備、KALCS におけるライティング支援および英語プレゼンテーションセミナーなど、初回の授業において『外国語教育ハンドブック 2013 年度版』にもとづき、全学生に周知を図っており、多くの学生に利用・活用されている。

根拠資料 ・『外国語教育ハンドブック 2013 年度版』、国際コミュニケーションセンターウェブサイト

７－２【学生への履修指導が適切に行われていること。また，学習，課外活動，生活や就職，経済面での援助等に関する相談・助言，支援が適切に行われていること。】

７－２－①：　授業科目，専門，専攻の選択の際のガイダンスが適切に実施されているか。

（観点に係る状況）

英語および未修外国語のそれぞれの初回の授業において、神戸大学での外国語教育の全体像を示し、辞書や学習方法、TOEIC/TOEFL などの受験案内、国コミの支援施設などを紹介し、大学４年間における外国語教育カリキュラムの全体像を学生が把握し、専門科目との連続的な学習計画を立てることができるようにしている。

根拠資料 ・外国語ハンドブック

７－２－②：　学習支援に関する学生のニーズが適切に把握されており，学習相談，助言，支援が適切に行われているか。
また，特別な支援を行うことが必要と考えられる学生への学習支援を適切に行うことのできる状況にあり，必要に応じて学習支援が行われているか。

（観点に係る状況）
専任はオフィスアワーを通じて、また、非常勤講師の場合は授業の前後の時間を学生の質疑応答の時間にあてて、学習相談などを行っている。

根拠資料 ・シラバス